

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年10月 1日

【評価実施概要】

事業所番号	2072200625		
法人名	社会福祉法人 大樹会		
事業所名	社会福祉法人大樹会 グループホーム ラポートあおき		
所在地	長野県小県郡青木村大字田沢3404-4 (電話) 0268-37-3770		
評価機関名	コスモプランニング有限会社		
所在地	長野市松岡1-35-5		
訪問調査日	平成19年9月28日	評価確定日	平成19年11月13日

【情報提供票より】(平成19年9月7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年 4月16日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	12人	常勤 9人, 非常勤 1人, 常勤換算10人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨一部鉄筋コンクリー造り		
	2階建ての ~ 2階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	22,000 円
敷金	有() 円) (無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有() 円) (無)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,100 円

(4) 利用者の概要(平成19年9月7日現在)

利用者人数	9名	男性 3名	女性 6名
要介護1	1	要介護2	2
要介護3	2	要介護4	2
要介護5	2	要支援2	0
年齢	平均 88歳	最低 81歳	最高 95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	丸子中央総合病院、青木診療所、青木歯科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

三方を山に囲まれ裾野には民家が点在している。誰もが思い描く“ふるさと”のイメージの中に社会福祉法人大樹会ラポートあおきの総合福祉施設の建物がありその一角にホームはある。ホームは、施設のような内装ではあるが、ふすまや障子など家庭の雰囲気をだす工夫が凝らされている。利用者の重度化が進む現状の中、ホームとして日常の健康管理や急変時の対応が出来るように繰り返し話し合いをもち方針を共有している。村内唯一のグループホームということもあり、行政からの期待も大きい。グループホームラポートあおきは地域密着型サービスを実践するために地域住民や市町村等と一緒に、入居者一人ひとり、住み慣れた場所でその人らしい暮らしが最期まで続けられる支援を目指している。開設3年半のホームであるがますます重要度が増している。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の改善事項のうち、地域との交流については複合施設の利点を活かし地域の運動会に参加したり、併設の特養施設を訪問している保育園児や小・中学生と定期的に交流している。戸外へ出ることについても複合施設敷地内の散歩やホームを囲むテラスの散歩を毎日に行っている。施設車で初詣や紅葉狩り等の遠出を行うこともある。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価はホームの一部の職員と併設施設の職員によって行われた。自己評価で見出された課題については改善に努めている。前回の評価結果が玄関に張り出されており誰でもが見ることが出来る。自己評価を全職員で行い、自分たちのケアの振り返りや改善に活用していただきたい。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 会議は2ヶ月に一回開催され、ホームの役割などを伝えている。有識者の助言を得ながら、質疑応答が活発になされている。認知症に関する電話相談にも関ることもある。今後は、災害時など地域の協力を働きかけていく予定である。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族等からの意見や苦情、要望等は面会時や家族会などで出してもらっている。ご意見箱も玄関の分かりやすい場所に設置されている。出された意見等は職員会議で報告され、検討、改善につなげている。また、ホームに関することではないが、他部署や新聞等で報道されたりする問題について、その機会を生かして職員と話し合い意識を高めている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームからの積極的な働きかけはないが、地元の人達と地域の運動会や敬老会など機会があるたびに交流を行っている。また、併設施設へ定期的に見える園児や小中学生、村内にある商店の出張販売などがあるときには、施設の方へ行き一緒に交流している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の中で尊厳を持って、その人らしい生活を送ることができるように、ひとり一人が安心して生活出来るように支援する」を基本理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月一回の職員会議や日々の支援の中で行き詰った時には、理念に触れ話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の運動会には入居者と共に参加している。保育園児、小・中学生が定期的に併設の特養施設を訪問しているので、そこに出掛けていき子供たちと交流している。ホームから積極的な働きかけはしていないが、地元の人達と交流の機会があれば積極的に活用している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は一部の職員と併設施設の職員によって行われた。自己評価で見い出された課題については改善に努めた。前回の評価結果が玄関に張り出されており誰でもが見ることができる。	○	自己評価の意義や目的、活用方法を全職員で理解した上で、今後の自己評価は全職員で行い、サービスの質の向上に活かしていただきたい。

グループホーム ラポートあおき

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回、地域住民代表、家族代表、村職員、有識者、介護支援専門員等の出席を得ながら会議が開催されている。会議ではホームの役割を伝え、有識者の助言を得ながら質疑応答が活発に行われている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所の中に、地域包括支援センターがあり、相談は何時でも可能である。また、行政手続き等で市町村担当窓口を訪問している。今後は市町村担当者との連携を深めながら、運営やサービスのことなどを報告したり相談する予定である。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ホーム便りは生活の様子を写真入りで掲載したり、ホームの活動内容や行事等を5～12頁にまとめ、年に2回ほど家族等に報告している。今後は毎月発行できるように内容を検討している。金銭については、面会時に説明し、確認印をいただいている。面会に来られない家族には、月に1～2回様子を電話で伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等からの意見や苦情、要望は面会時や家族会などで出してもらっている。出された意見に関しては、検討し改善に努めている。職員の勤務が分からないとの家族からの声に対し勤務表を玄関に張り出し要望に応えた経緯もある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や交代に関しては入居者への影響を考慮し、できる限り最小限に抑える努力をしているが、事業所内の異動や個人の理由で職員が変わっている。新しい職員には、1ヶ月トレーナーがつき、入居者が不安にならないように工夫している。	○	異動や離職者が少なくなるよう更に努めていただきたい。また、ホーム便り等に人事欄を設けて新しい職員の紹介をして家族にも知らせていただきたい。

グループホーム ラポートあおき

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修後は、報告書が作成され、会議で発表している。報告書は全職員が閲覧している。	○	地域密着型サービスへの移行や、開設3年余りとなり入居者の状態も変わってきていることから職員の質の確保・向上に向けた取組みがますます必要になってきていると思われる。内部・外部の学習会や研修に多くの職員が参加できるように計画的に行っていただきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会には加入している。隣市のグループホームの集まりには計画担当者が参加し始めており、現場スタッフの交流などが検討されている。地域性もあり、他のグループホームとの交流の機会が少ないので、今後はインターネット等を活用することも考えている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が納得して利用できるように馴染みの関係づくりを大切にしている。体験利用は少ないが、相談があれば本人のいるところへ職員が出向き家族や本人と会話の機会を作っている。村内に一つのグループホームでもあり、行政からの紹介も多い。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者のペースに合わせてながら一緒に笑ったり、楽しむように努めている。入居者の得意分野があれば、声をかけては生活の知恵を借りている。		

グループホーム ラポートあおき

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中から、一人ひとりの思いや意向をくみ取っている。意思疎通が困難な入居者については、今までの生活の中から気持ちを勘案(花が好きだったから見に行きたいと思っているのではないかな等)し、支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員会議やカンファレンス等で意見を出し合いながら、一人ひとりその時点に沿った具体的な介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態が変わったり、介護度が変わったりした時、家族や本人の要望があった場合等、臨機応変に見直しをする取り組みがある。期間に応じた見直しも行われている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族にかわって通院に付き添っている。理美容院や衣類等の買い物は併設の特養で開かれる村内の商店の出張販売を利用している。また、事業所にかかってくる認知症電話相談に対し、話を聞いたりアドバイスしている。		

グループホーム ラポートあおき


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後は特養の嘱託医師の往診を週2回受けている。主治医が変わる事については、本人家族は了解している。状態により協力医療機関の診察を受けることや、認知症状によっては専門医師の診察も受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約時には看取りに関しても説明している。重度化し看取りが必要となった場合に関する指針を定めている。看取り対応マニュアルも作成されている。入居者が重度化してきている現状に職員は戸惑いはあるが、日常の健康管理や急変時に対応できるよう繰り返し話し合い全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護法の理解や情報の漏えい防止に関しては入職時に指導している。また、新聞で報道があった時や他の部署に苦情があった時には、管理者はその都度職員と話し合いプライバシー保護の徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな一日のスケジュールはあるが、一人ひとりのペースで生活できるように見守り支援している。お茶を飲みながら入居者がつぶやいた言葉を大切に、できる限り希望を叶えることに努めている。		

グループホーム ラポートあおき

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員が毎食、一緒にテーブルにつき食事をしている。職員らは食事が楽しいものとなるようにと話しかけるなど雰囲気づくりに努めている。入居者の重度化に伴い、職員と一緒にしていた盛り付けや片付けは出来なくなっている。月に一回程度入居者からの人気メニューが取り入れられている。	○	食事は席についた入居者から食べ始めている。食事は一日の大切な活動のひとつなので、食べ始める時だけでも声をかけ合って(いただきます等)一緒に食べ始めてはどうだろうか。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	重度化したことで特養の浴室を借りて入浴支援を行う場合もある。入浴を嫌がる入居者に対しては毎日声かけをしたり、早めに入浴の話しかけをするなど工夫してその気になるのを待って支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとり波はあるので日課としては出来ないが、出来る時やしたい時に入居者の力量に応じて、洗濯物を干したり、たたむ事、食器洗いや新聞折りなどをお願いしている。また、ねぎらいの言葉を必ず伝えている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	施設車で初詣や紅葉狩り、桜の花見などに出席していたが、遠出は徐々に入居者の状態で難しくなっている。事業所の敷地内の散歩やホームを囲むテラスの散歩は毎日のように行い、重度化しても出来るだけ戸外に出かけるように支援している。また、天気の良い日にはテラスでお茶をいただくこともある。外食は2~3ヶ月に1度高齢者用レストランへ出かけている。通院の帰りに付き添いの職員と一緒に外食をしてくることもある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外出傾向の入居者は現在はいないが、以前に帰宅願望の入居者がいた時は、入居者と一緒に自宅まで同行し、本人の思いを満たす支援を行っていた。居室や玄関に鍵を掛けることの弊害を職員らは理解している。		

グループホーム ラポートあおき

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回事業所全体で避難訓練を実施している。また、非常用食料等の備蓄もある。特養の宿直には地域在住の職員が当たっているため協力を得やすい。ホームは隣組からは離れた所にあるので、災害時地域の協力体制について運営推進会議で協力を働きかけていく予定である。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によって一日の栄養内容が分析されている。食事や水分の摂取状況は毎日確認されており、チェック表に記録されている。一人ひとりの状態に応じて調理されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いホールは格子の垣根、ふすま、障子で仕切られている。一段高くなった畳の部屋やソファのコーナーもある。所々に季節の花が飾られており、施設らしさをカバーしていた。その広いホールで一部の入居者がテレビを見たり、職員とおしゃべりしたりと思いの場所で過ごしていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳やベッドの部屋に家族の写真や仏壇、ダンスやテレビ等が持ち込まれて入居者ごとの居室づくりがされていた。		

※  は、重点項目。